

第5回 ことう地域チームケア研究会



彦根市立病院 医療情報センター
多目的室

平成25年11月12日(火)

グループワーク

- 講演を聞いた感想・もっと知りたいこと
- 今、私たちの取り組んでいること

など

- 吸引器まで貸し出し出しているようになってよかった。
- 心のくみ取り方が大切。患者・家族にとっては、ほんの少しでもありがたかったり、つらかったりする。
- 往診医と訪問看護の連携が重要。
- 抑制は治療上、せざるをえないこともあるが、説明を丁寧に。
- 家族の覚悟と決断を支える支援者のサポートが必要。
- 緩和ケア病棟があるということは、病院にいつでも入院できるという安心感がある。

- 看取りについては、家族には世間体があって、家族へのフォローをしていかないといけないし、住民の理解を深める必要がある。
- 歯科訪問診療でQOLの向上につながるのではないか
- チームの中で、各職種の役割をわかりあうことが必要
- 高齢化社会を迎え、医師の負担の軽減が必要
- 施設でも家族の思いを聞ける機会を設けることができるとうい

- 看取りは、チーム支援が大切
- 本人が元気なうちに最期をどのように迎えるか聞いておくことよい。エンディングノート早いうちに書いておくことも大切。
- 病院でも在宅なみのケアが受けれるとよい
- 在宅で看ていくには、看護師・介護職の支えが必要
- 口腔ケアはよりよい生活を送る上で、重要。
- ターミナルケアの時には、患者・家族への声かけをどうしたらいいのか悩むが、今と同じようにしたらいいのではないか

- 患者は家に帰りたいし、家族は家では看られないという。支援者として葛藤がある。
- 在宅看取りを決心されたことそのものがすばらしい。
- 世間体、近所の人目がある。周囲が「何で病院でみてもらわないの?!」と思っていると、在宅看取りしづらい。
- 24時間や休日のサービスが少ない。年末年始等には、何も無いようにと願う状況もある。
- ショートステイの受け入れ枠が少ない。医療依存度の高いケースの受け入れ困難。受け入れ先を増やすことが必要。
- 往診医が増えるといいな。

- 複合施設を有効に活用していかないといけないと思う。この施設は、市民さんが直接利用するというより、支援者が使用する施設であるので、この会を活用するなどして市民へとつなぐ役目がある。
- 多職種連携大切だが、工夫が必要。パンフレット+αの情報がもらえるといい。
- 看取り出前講座は、看取られた家族の生の声が聞けてよかった。
- 介護者をどう支えるか、社会資源を支援者が熟知すること大切→複合施設を活用できる！

- 支援者として在宅に不安があったが、家族の方に家で介護してよかったと思えるように支援ができるといい。
- 医療についての不安があったが、往診医にきてもらえて安心できた。
- 入院中から家の状況に応じたりハビリができる、移行がスムーズにできる。
- 在宅看取りについては、認知されてきてはいるが、まだまだアナウンスが必要
- 患者・家族の満足感を得ていただくには、支援者のチームワークが必要。
- 100%の努力では、息切れしてしまうので、70%の力で家で生活できる環境づくりが大切。
- 患者さん・ご家族のQOLをあげることが重要。

- 歯科訪問診療が広がるといいな
- 支援者の何気ない一言、そんなつもりがない言葉でも、家族や患者を傷つけることがある。
- 介護保険や在宅医療に関する制度の周知が必要。まだまだ、介護保険・訪問看護等を知らない人もいるのではないか。
- 高齢者虐待にもつながる可能性があるのと、在宅でみるほうがいいのか、入院で安全確保が必要か、葛藤がある。

- 複合施設は活用することが大切だが、イメージしにくい。期待とともに不安もある。各団体でどのように周知されているのか。勉強会などで共有していくことが必要。
- ケアマネの立場でいうと、複合施設でワンストップ相談ができるといいな。
- 訪問歯科診療の依頼少ない。もう少しあってもよい。口腔ケア毎日十分にできているのか。優先順位として低くなりがちであるが、しっかりケアマネジメントに入れてほしい。
- 在宅看取り: 痛みのコントロール等バックアップ体制が重要。状態の変化を察知できる介護者がいないと難しい。看取る家族がいるから看取れる。医療依存度の高いケースの看取り難しい。家族の理解も必要。
- 家族が看取れてよかったと思えることが大切。

- 家族みんなで支えて看取れた。ひ孫さんは今でも憶えている。
- 家族をみてくれたのがうれしかった。癒された。本人だけでなく家族もケアしてもらえらることのでうれしかった。
- 高齢者世帯・独居世帯が増えるが看取りがどうなっていくか
- 予後をしっかりと医師・看護師から説明してもらえて安心できた。

- 在宅では、本人・家族が安心して地域に住める、満足度をあげることも重要。
- 家族が看取りに積極的でない場合もある。困難なケースも聞いてみたい。
- 在宅サービスが十分に知られていない。家族への情報提供が必要。
- 小規模多機能事業所：家族でみるのが難しいので、施設でと言われることがある。在宅のサービスの使い方が知られていないのが現状としてある。
- 在宅支援では、それぞれの専門職のスキルを上げることが重要。
- それぞれの職種がお互いのスキルを上げることができるといい。